

不登校・いじめ防止に心理療法

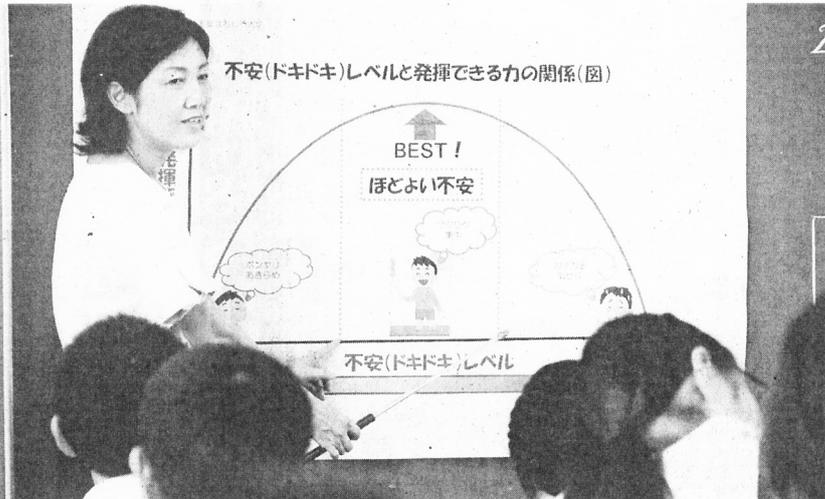
うつ病や不安障害などの治療に使われる心理療法の「認知行動療法」を学校現場で取り入れる動きが広がっている。児童生徒が、日常生活で抱く不安な気持ちとの向き合い方を知り、心の負担を軽くする「不登校・不登校やいじめなどを防ぐのが狙いだ。」

【柿崎誠、写真も】

「怖がりな慎重な豚を重ね、虫が飛んでく」の「ブーちゃん」は風が強く不安なのに、元気がいいの力エルの「ケロくん」の誘いを断れず、悪天候の中で海水浴に行きました。この時のブーちゃんの不安は「ブーちゃんの不安はどういうものですか？」

福岡県八女市立福岡小5年のクラスで今月14日にあった授業。担任の泉智子教諭が問いかけると、子供たちは相談し「身を守る役割がある」と答えた。泉教諭は「そう。私も高い所に行くとき不安になる。でも不安な気持ちにはいろいろある。オリンピック選手は不安があったほうが集中してベストな力が出せるよね」と感じた。子供たちは更に対話に着けるとともに、相

不安と仲良くなるろう



八女の小学校で導入

手の気持ちも理解でき参考にして作られた。2017年度に千葉、待されている。鳥取県立小中学校計30校が初めて採用し、プログラム終了後には子供たちが感じる不安の数値が大きく減ったという。九州・山口では今月から市内5小学校で導入した八女

学校の対象にした文部科学省の16年度調査で、不登校の小中学生13万3683人の要因を分類したところ「不安傾向」が「無気力」(30・3%)や「学校での人間関係」(16・9%)を上回り、最多の31・2%に上った。

プログラム考案者の一人で、千葉大子どものこころの発達教育研究センターの浦尾悠子特任助教は「不安な気持ちにも役割があることや、自分だけでなく友達も同じように不安を感じていることを知り、漠然としたストレスを解消してあげることと不登校や他人への暴力、いじめの減少につなげたい」と語る。八女市教委の永溝弘幸教育部長は「従来の教育現場は何か問題が起きた後にどう対処するかが中心だった。科学的な考えを基にした予防的な取り組みは珍しく効果を期待したい」と話した。

授業で図表を使いながら不安な気持ちの意味について教える泉教諭。福岡県八女市の市立福岡小学校で。

風疹患者496人

昨年1年の5倍超に

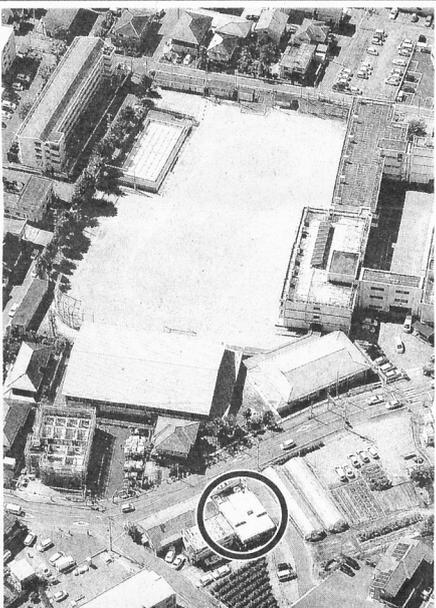
国立感染症研究所は19日、今年の風疹の患者が累計で496人になったと発表した。昨年1年の患者数(93人)の5倍超。3～9日で127人増え、流行が続いている。都道府県別で新規患者が多いのは、東京32人▽千葉27人▽神奈川19人▽埼玉、愛知11人——の順。患者は30～50代の男性が全体の約3分の2を占める。この年代の男性は、国の予防接種制度の変更のためワクチン接種が不十分で、感染リスクが高いと見られる。

強奪 懲役14年求

天神3.8億円 橋渡し会社役員

福岡市中央区天神の駐車場で昨年4月、金塊買付け資金3億8400万円が奪われた事件で、強盗傷害などの罪に問われた東京都葛飾区の会社役員、東房義昭被告(45)の裁判員裁判の論告求刑公判が19日、福岡地裁(足立勉裁判長)であった。検察側は「巨額利益を得るための組織的犯行で社会を騒然とさせた」として懲役14年を求刑。弁護側は窃盗罪を適用し懲役8年以下が相当と主張し、結審した。判決は25日に言い渡される。

事件で与したと盗傷罪罪られていたのは初。検察東房被告を基に報を基に計画を事伝える様



は心理的に動揺している。ヨックだ」と話している。滝沢一誠、早川

トップに選た後に巡